

< もくじ >	
1. 第4回研究会合同イベント「長命時代“しなやかに生きる力”を考える」参加者募集中	1
2. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム開催のお知らせ	1
3. 2018年連続「読書会」第3回～第5回のお知らせ	2
4. 研究会からのお知らせ	3
5. 各研究会の概要報告	3
6. エイジレスフォーラム16号執筆著書募集のご案内	5

## 1. 第4回研究会合同イベント「長命時代“しなやかに生きる力”を考える」 （「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポジウム）の参加者募集中

あの怒涛の様なマンパワーとエネルギーで戦後日本を牽引し、他の世代を圧倒して来た約800万人もの“人間の塊”とされた「団塊の世代」。それが揃って後期高齢者になる2025年問題が今や、2035年まで延ばされた超高齢・少子、人口減少時代の悲惨な状況に昨今は、2040年には「孤老」「独居老人」が全世帯の4割にも達するとの推計も。さらに老老介護の日常化、認知症患者の激増、「死亡適齢期人口」の加速化—そうした深刻な「人生100年時代のライフプロデュース」には何か必要かを考察するシンポジウムに、お一人でも多くの方に参加いただき、明日は我が身、我がこととして、共に学んでみませんか？

詳細については、添付のチラシをご参照ください。

- 1) 日 時：2018年3月3日（土）14：00～16：30（開場は13：30）
- 2) 場 所：駒澤大学 第2研究館 209教室
- 3) 参加費：1000円（学生 500円）
- 4) 申込方法：事務局まで、電話、FAX、メールでお申し込みください。（メールでの申し込み用フォーマット、申込用紙を印刷したチラシを添付しますので、それをご利用ください）

## 2. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム開催のお知らせ（再掲）

「あれから7年～私たちはフクシマを忘れない～

—首都圏への長期避難者が抱える葛藤と課題—

- ◆司 会：長田攻一・松村 治
- ◆報告者：大坊雅一（東雲住宅避難者自治会「東雲の会」事務局長）  
佐藤恒富（NPO かながわ避難者と共にあゆむ会）事務局）  
西城戸誠（法政大学人間環境学部教授）
- ◆コメンテーター：浦野正樹、伊藤まり、川副早央里
- ◇共催：シニア社会学会「災害と地域社会」研究会・早稲田大学総合人文科学研究センター  
＜現代社会の危機と共生社会創出に向けた研究＞部門
- ◇後援：早稲田大学地域社会と危機管理研究所「災害と地域社会」研究会

※ 詳細については、添付のチラシをご参照ください。

- 1) 日 時：2018年3月17日（土） 14：00～17：00 （開場は13：30）
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室
- 3) 参加費：無料
- 4) 申込方法：事務局に電話・FAX、メールにてお申し込みください。

### 3. 2018年連続「読書会」第3回～第5回のお知らせ

前号でお知らせした今年度の読書会第1回、第2回は、それぞれ1月17日、2月14日に終了いたしました。第3回～第5回の読書会で取り上げる文献は、山崎 亮『縮充する日本：「参加」が創り出す人口減少社会の希望』（PHP新書、2016）です。

著者の山崎亮さんは、コミュニティ・デザイナーの肩書を持ち、全国各地で幅広く実践的活動を行っている方ですのでご存知の人も多いと思います。本書は、現代日本の政治、経済、教育、福祉、アート、ネット社会、環境、まちづくりに至るまで広い領域で見られる「参加」の潮流に注目し、人口減少時代に突入している日本の将来について悲観的であるよりは「縮充」という用語を用いて、お互いに幸せを感じるコミュニティのあり方を前向きに論じています。

本書で扱うのは「コミュニティ」ですが、読書会の狙いは、これからの人びとの生活の基盤をコミュニティに求めつつ、国を始めとする行政との関わり、企業との関わり、自然環境との関わり、グローバル経済との関わりについて本書からさまざまなヒントを得ながら議論し、本年度の大会での学会としての提言をまとめるための一助とすることです。

本書は新書版にもかかわらず1回で読了するには分量が多く、またさまざまな論点について議論するためにも、以下のように3回に分けて行うことになりました。それぞれの回の分担と担当者が決まっており、担当者のリードによって進めていく予定です。

3か年計画で進めてきた当学会の「持続可能な超高齢社会をめざして」というテーマの最終年度である今年度の大会テーマ設定にも密接にかかわる読書会として企画しておりますので、ご関心のある方にはぜひともご参加いただき、大会での議論を盛り上げるためにご協力いただきたくご案内いたします。

文献：山崎 亮『縮充する日本：「参加」が創り出す人口減少社会の希望』（PHP新書、2016）

#### (1) 第3回読書会

- 1) 日 時：2018年3月14日（水） 15：00～17：00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局（渋谷パールビル4階）
- 3) 扱う章：序章～第3章
- 4) 担当者：碓 正義

#### (2) 第4回読書会

- 1) 日 時：2018年4月18日（水） 15：00～17：00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局（渋谷パールビル4階）
- 3) 扱う章：第4章～第7章
- 4) 担当者：袖井孝子

#### (3) 第5回読書会

- 1) 日 時：2018年5月16日（水） 15：00～17：00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局（渋谷パールビル4階）
- 3) 扱う章：第8章～終章
- 4) 担当者：中村昌子

※ 参加ご希望の方は、事務局までメールか電話でご連絡ください。

## 4. 研究会からのお知らせ

### (1) 第52回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2018年2月22日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・大隈会館教職員レストラン楠亭会議室  
Tel: 03-5285-1121 (リーガロイヤルホテル東京内)  
場所が通常とは異なりますので、ご注意ください。

3) 報告者とテーマ：佐藤敬さん — 新聞が報じる「事実」「世論」「輿論」から見えてくる「真実」とは？

4) 参加費：300円

\*お問い合わせは、島村 ([ken-sima1941@jcom.home.ne.jp](mailto:ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)) 迄お願い致します。

### (2) 第47回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2018年4月24日(火) 18:30~20:30

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室

3) 報告者：野坂 真 (早稲田大学文学学術院 助手)

4) テーマ：地方での災害復興過程における被災構造と地域再建  
—岩手県大槌町における住民層ごとの地域生活モデルの再構築に注目して—

5) 参加費：500円 (ただし、社会人を除く学生、早稲田大学総合人文科学研究センター〈現代の危機と共生社会〉研究部門および、早稲田大学プロジェクト研究所のメンバーは無料)

※ お問い合わせは、福原 ([fukuhara@jaas.jp](mailto:fukuhara@jaas.jp)) までお願いいたします。

### (3) 新設の研究会「ライフプロデュース」研究会 (座長：皆川鞆一) へのお誘い

シニア社会学会に、新しい研究会が誕生します。内容については JAAS News第221号及び第222号でお知らせしたとおりです。ご参加いただける方を募集しております。

※ 第1回研究会の開催は3月3日の合同イベント終了後になります。参加ご希望の方は、皆川鞆一 ([jminagawa1108@kca.biglobe.ne.jp](mailto:jminagawa1108@kca.biglobe.ne.jp)) または中村昌子 ([nakamurayoshiko6@gmail.com](mailto:nakamurayoshiko6@gmail.com)) までご連絡をお願いします。

### (4) 「シニアのICT活用研究会」の開催について

次回以降の研究会開催は調整中であり、決まり次第あらためてお知らせします。

## 5. 各研究会の概要報告

### (1) 第107回「社会保障」研究会の報告

1) 日 時：2018年1月17日(水) 19:00~21:00

2) 報告者：平山 亮氏 (東京都健康長寿医療センター研究所研究員)

3) テーマ：「息子介護：男の看方(みかた)、女の見方」

4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

主に息子から介護を受けているという高齢者は増えており、主たる家族介護者に「息子」が占める割合は、2016年の時点で「息子の妻」を超えた。この報告では、増える息子介護に対する私たちの見方、および介護する息子たちによる親の見方を取り上げ、それらの見方がどのようなジェンダー観を前提に成立しているかを検討した。

息子介護者、とりわけ既婚の息子介護者の増加は、子世代の家族介護の負担がジェンダー平等に近づいている兆しのように語られることが多い。だが、このような見方は、夫の親の介護負担の分担状況にのみもとづいている。妻の親の介護に対して夫はほぼ非関与を貫いているという

事実、逆に妻はいまだに何らかの形で夫の親の介護に関与している場合が多いという事実は不可視化されている。また、妻のそうした関与は、それなしでは息子の介護が回らないことさえあるにもかかわらず、ADL 介助を中心とした介護の概念によって「単なる手伝い」と過小評価されてしまうことが多い。つまり、わたしたちの家族介護に対する「よくある見方」は、介護負担をめぐっていまだに残るジェンダー不平等を隠蔽する効果がある。

ジェンダー観は、息子による介護のしかたにも作用する。息子は娘に比べ、親の現状維持や改善に固執しやすいことが国内外の研究から報告されているが、何を親の「常態」と見なすかには母の場合と父の場合とで必ずしも同じではない。家庭のケア役割を負ってきた母親は、家事ができなくなることで衰えを認識されやすいが、健康な時からケア役割をしていない／できない父親は、家で何もしていなくても衰えたとは見なされない。それゆえ、維持改善を求める息子からの「ちゃんとして」という叱咤を受けやすいのは母親である。

報告ではこれらの研究知見を踏まえ、家族介護の現状把握や、介護者の心理の理解におけるジェンダーという視点の重要性を指摘した。(平山亮 記)

## (2) 第46回「災害と地域社会」研究会概要報告

- 1) 日 時：2018年1月23日(火) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：伊藤 勝(江戸川大学名誉教授)
- 4) テーマ：「身を守る教訓とまず行うこと：“Scientific Knowledge in Seconds & First Actions Explained in an Instant”の作成について」

今回のご報告では、伊藤さんの長年の経験を踏まえて執筆中の『その時、「人を救う」ための行動と基礎知識』(仮題)の目的や構成と内容の一部についてお話しいただきました。

目的は、①誰にでも降りかかる事故などに遭遇したとき、あなたは何をすべきか、②家庭などで用意する救急用品とその簡単な使い方、③火事や地震などの災害対応として準備しておくことやその使い方、④緊急時に知っておくべき、身体や自然災害のメカニズムなどの基礎知識を、一般の人にわかりやすく解説するところにあります。

われわれは、防災用品や救急用品を購入することや、AED が設置されている表示を見ることはありますが、「買っておけば安心」、「AED の場所を知っている」、「AED を訓練で使ったことがある」ことで、ある程度備えができていて感じているかもしれません。しかし、われわれ自身が「人が倒れている」状況に遭遇するとき、実際に、倒れている人の苦痛をやわらげたり、負傷の深刻化を防いだり、命を助けることにつながるような基本的知識と行動の仕方は、意外と身につけていないことに気づきます。

構成は大きく、A.身を守る行動、B.身を守る備え、C.身を守る基礎知識編、の3部に分けられており、さまざまな状況を想定しながらも基本的に踏むべきステップをわかりやすくまとめようとしており、その意図は十分に理解できるものでした。参加者からは、このような知識を出版物として販売するとともに、パンフレットやスマホのアプリをつけて、どこにいても参照できるような方法について、さまざまなアイデアが出されました。(長田記)

## (3) 第51回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2018年1月25日(木) 15:00~18:10
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) 報告者とテーマ

①碓 正義さん — 債務貨幣システムの欠陥と社会の持続可能性

②安田和紘さん — 新聞記事から考察へ

今回は、二人の方からの問題提起の発表でした。碓さんは資本主義の中で通貨の発行システムについて大方の認識は間違っており、私たちにとって最も身近な「お金」について、山口薫著『公共貨幣』(2015年東洋経済新報社刊)からの抜粋内容を中心に発表された。そして山口

氏によれば、現在の貨幣システムはシステムデザイン上の欠陥があって種々問題が起きており、小手先の対策では問題解決は難しく、デザインを作り直さなければならない。そのことを多くの国民が気付くことが大事と締めくくられた。

安田さんは、最近の新聞記事から注目する課題として、1つはトランプ大統領就任1年経過。2つは格差の問題。3つは長時間労働問題。4つは安倍首相施政方針演説。5つ目は人づくり革命を上げられた。そしていま、世の中は変わってきている。日本の社会はどうなるのか不安であると述べられた。（島村記）

## 6. 「エイジレスフォーラム」16号に会員が執筆した著書をご紹介します

一般社団法人シニア社会学会は、広報誌のひとつ学会機関誌「エイジレスフォーラム」第16号に、過去3年以内に会員が執筆した著書、または共著を『著書紹介』でご紹介します。

ついては、下記の要項に基づき、書評及び著書の表紙画像を、事務局宛お送りください。

### ◆『著書紹介』掲載要項

応募方法：過去3年以内に会員が執筆した著書、または共著。

紹介著書の書評、及び著書本体（表紙画像掲載の為）を下記あてお送りください。

書評文字数：1,200字以内を厳守ください。

書評のみ電子メール(jaas@circus.ocn.ne.jp)にて事務局担当武者宛お送りください。

締切：2018年3月30日必着

送り先：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

一般社団法人シニア社会学会・事務局 担当 武者宛

尚、お送りいただきました著書は編集終了後返却致します。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX：(03) 5778-4728

eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL：<http://www.jaas.jp/>